



京産大の学生が報告会

地域振興やSDGsの視点で持続可能な舞鶴を

農業のさらなる発展のために、農地等の利用の最適化などに取り組む農業委員19人と農地利用最適化推進委員17人を募集。申し込み方法は応募用紙(農林課に備え付け。市ホームページからダウンロード可)に必要書類を添えて農業委員会事務局(農林課内)へ。3月31日(火)必着。対象や任期は次のとおり。

農地の適正な利用を推進

農業委員・農地利用適正化推進委員を募集



舞鶴市社会福祉大会を開催

社会福祉功労者に感謝と敬意を込めて

2月1日、市の社会福祉功労者を表彰する「舞鶴市社会福祉大会」を中総会館で開催。式典では、長年にわたり社会福祉の増進に貢献された民生児童委員や民間社会福祉施設等職員、ボランティア団体など延べ85人、4団体に多々見市長と荻野社会福祉協議会会長から表彰状が、また、市社会福祉協議会へ寄付

された1人1団体には感謝状が贈られました。式典後には、更生保護活動についてをテーマに、犯罪や非行をした人の立ち直りを支える取り組みについて、舞鶴地区保護司会会長の桑村さんと舞鶴東地区更生保護女性会会長の石束さんの講演があり、社会の中で見守り、地域の力で支えていくことの大切さを学びました。

《福祉企画課、舞鶴市社会福祉協議会》

〔任期〕令和2年7月20日～5年7月19日

《農業委員・農地利用最適化推進委員》
〔対象〕農地等の利用の最適化や京力農場プランの推進に熱意と見識を有し、その職務を適切に行うことができる人。

〔任期〕委嘱日(令和5年7月19日) 委嘱日(令和5年7月19日) 委嘱日(令和5年7月19日)

《観光振興課》



関西大の学生が報告会

ターゲットは「舞鶴産都会ガール」

「舞鶴市と京都産業大学との包括的連携協力に関する協定」に基づき、昨年7月と10月に京都産業大学の学生が本市で実施したSDGsに関するフィールドワークについての報告会を2月10日に実施。フィールドワークで体験したことや感じたことを基に、小・中学生向けの教育旅

行プログラムの提案のほか、市の現状と課題を踏まえ少子化や観光施設、都市農村交流など、外からの目線で政策提言もありました。

教育旅行プログラムは、SDGsに掲げられている17の目標に合わせて子ども達自らが市の持つ地域資源や課題を体験し考えられるような内容になっており、来年度はプログラムをテストし精度を高めていきます。



市内の小・中学校給食で提供

舞鶴産のサワラ「おいしい！」



地元舞鶴の水産物や漁業への関心を高めてもらうため、市内の小・中学校給食で旬の舞鶴産サワラを使用しています。

2月7日には大浦小学校でサワラのおろしりんごソースが登場。児童からは「ソースが甘酸っぱくてサワラによく合っていておいしかった」などの感想がありました。

この他にも、サワラの西京焼きやフィッシュバーガーなど工夫をこらしたメニューが市内の小・中学校で提供されました。《水産課》

語り部養成講座が開講

学生17人含む34人が史実を次世代へ



引き揚げやシベリア抑留の史実を次世代へ継承するための語り部養成講座を開講。34人が語り部になるために日本近代史から戦後引き揚げ、世界遺産登録やウズベキスタンとの交流などを3月14日までに4回の講座で学びます。修学旅行生の増える10月ごろには実際に語り部として活動する予定です。《引揚記念館》

救急体制の維持・向上のために

救急自動車を配置



2月26日、東消防署に救急自動車を配置しました。同車には、自動体外式除細動器(AED)や心電計、自動心肺蘇生器など最新の救急資機材を装備。市民の皆さんの救急需要への対応をより一層強化し、救急体制の維持・向上を目指します。《消防本部》

1月28日、関西大学の学生が昨年9月に本市で行ったフィールドワークの研究報告会を実施しました。

フィールドワークでは、市内の観光名所や市街地散策で外部の若い視点から客観的に舞鶴市の魅力や課題を抽出してもらうほか、市内の高校生や地域住民との座談会で市民の声を中心とした内側の視点からも舞鶴市を分析してもらいました。

研究報告会では、分析結果の報告に加え、結果を踏まえて学生たちが考えた施策を提案。舞鶴で生まれ育ち、進学や就職で

都会に暮らしている女性をターゲットに、将来Uターンを考えるともらえるよう写真映えるスポットを巡りながら今まで気付いていなかったまちの魅力を実感できる旅行プランを発表しました。

《広報広聴課》